



*緑の葉と水の雫をモチーフにした守山ブランドのロゴマークです。
 小さな活動が種となって、大きく育つ「守山」をイメージしてタイトルをつくりました。

未来まで郷土を愛してほしいから

歴史や暮らし、町民ぐるみで完成した 「三宅町誌」編纂に寄せた思い



三宅町には、明治時代からの集落の様子などを語り合う「三宅の昔を語る会」があり、それを前身として「三宅歴史学習会」が作られました。昔ながらの暮らしも郷土の歴史も時代に埋もれてしまいそうな焦燥感を覚えていた頃、小津村の初代村長を務めた有力者である北川 源三郎氏の子孫が家を整理することになり、古文書など約800点を超える貴重な資料が発見されました。これをきっかけに町誌の編纂が実現しました。

三宅町誌は「歴史編」と「自然・生活編」から構成され、歴史編は専門家の力を借りて学術的にも遜色なく仕上げ、「自然・生活編」は古老の聞き取りなどを行い、地域ぐるみで編纂に参加してもらいました。編纂委員長の田中 健一さんは「三宅町に伝わる歴史秘話などもあり、未来まで住民が郷土を愛してくれるよりどころとなる一冊になればと思っています」と話していました。

- ④郷土の昔を知る貴重な資料
- ④完成した三宅町誌
- ④編纂委員長田中健一さん

枝の切り方、切る位置

みどりの教室

樹木医 中西先生の

③ 公園の緑や街路樹、自然豊かなまちの身近な緑を守るために、私たちにできること

●枝の残しすぎ 切り口から腐れが入り、木が弱ってしまう。切除後1ヵ月くらいで☆の部分が膨らんで、枝と幹の境がはっきり分かる。ここで残りの枝を切り落としてやれば、切り口がふさがる。

●枝の切りすぎ 腐れが入り、大きく穴があいてしまうことがある。

●よく切れる鋸や鋏で切りましょう。
 ●切り口には殺菌剤を塗布してください。
 ●適切な位置が分かりにくいときは、枝を残して切り、1~2ヵ月後に幹が膨らんで境がはっきりしてから残りの枝を切ると失敗しません。

出典：(一財)日本緑化センター発行「木を診る 木を知る」
 イラスト 小川 芳彦